

■イスラム科学の歴史

凡例 赤文字の人物は同一人物 [A] :Aは巻末データの検索NO
 □ :コメント
 ・学者のコメントは、【70】【90】による

| 区分 | イスラムの社会状況 | 制度・技術 | 自国の学問 | | 外來の学問 | 欧州・インド・中国 |
|-----|---|---|---|---|-------|-----------|
| | | | 法学・神学・言語学・歴史学 | 哲学・論理学・地理学・医学・数学・天文暦学・光学・錬金術 | | |
| 7C | <p>○集団の破壊⇨外圧 急激な市場化に伴い、裕福故の腐敗が横行し伝統的な秩序(部族連合)が内部から乱れ、アラビア人内での激しい抗争もあり→内外から集団崩壊の危機に直面【140】【150】</p> <p>↓</p> <p>622 ヒジュラ(聖遷)イスラム紀元 630 ムハンマド、メッカを征服 632 ムハンマド死去、正統カリフ時代 650 クルアーンの成立【160】【50】 661 ウマイヤ朝成立 →スンニ派とシーア派に分裂</p> | <p>○イスラム共同体の強化 ・科学的思考の推奨【10】 「神を信じることは必須だが、盲従は禁止。クルアーンのユースス章に「天地の凡てのものを観察しなさい。」 ・知識の追求の推奨【20】 ・ハディースでは、知識の追求が奨励されている</p> <p>↑</p> <p>・環境外圧 徹頭徹尾、商人として生きる知識の追求に向かう 砂漠のみで、資源がない</p> | <p>○教育の起源(=アラビア語の普及と行動規範の浸透→連帯感の醸成) 最初はクルアーンの読み方やイスラムの教義を教えた。具体的には表音文字で文字数が限られて(=記憶し易い)クルアーンを子供達は斉唱(⇒暗礁する)を通じて読み書きを習う。次に算数等が加わる。更に高等な教育を受けるにはより高いムッラーへ弟子入りする。【30】【60】</p> <p>○教育の制度化 高等教育の組織化を目指して10C末頃にムッラー制度が出来る。貧乏な師弟でも向学心があれば奨学金や衣食が至急されて勉強が出来た。【30】</p> <p>○能力主義: 序列制度の排除(=アッラーの下での平等)【30】【40】 ・イスラム教には階級制度がない ・中国の科挙のような試験制度がない ・学問の分野が広がると師弟の別という固定した考えは取り払われ、ある分野では師である者も、自分の弟子にあたる者に他の分野については教えるようになった。</p> <p>○学者を育む場(=学問のネットワークの構築)【40】 学者になるには各地の学院や有力者のもとを渡り歩き、専門知識を高め評価されることが不可欠となる。学問のネットワークの形成。</p> | <p>欧州・インド・中国</p> <p>・6~7世紀: 唐火薬の発明</p> | | |
| 8C | <p>711 西ゴート王国を滅ぼし、イベリア半島征服 750 アッバース朝成立(~1258)</p> <p>↓</p> <p>人々の移動が安全になり巡礼が増える。誰でも移動が自由になり学問、商売発展</p> | <p>757 【紙の生産開始】 記録保存から ・情報量増大 ・アラビア語普及</p> | <p>以下の学者のコメントは【70】【90】参照</p> <p>・ジャーヒル・イブン・ジャイヤーン(721~815?) 哲学・イラン系</p> <p>・ジャーヒル・イブン・ジャイヤーン【80】(721~815?) 錬金術・イラン系 【↑12C錬金術のバブル、ロジャー・ベークンに影響?】=市場を広げる為に貨幣の材料: 金・銀が必要だった</p> | <p>○360度の視点で知識(事実)の追求 ・錬金術: 古代エジプト ・数学はギリシャの幾何学とインドの数学。特にインドの十進法とゼロの観念は大きかった。 ・天文暦学: 古代オリエントの占星術他</p> | | |
| 9C | <p>ユダヤ教、キリスト教、正統派キリスト教圏から見放された人々もイスラム共同体は受け入れ、又、アラブ人と非アラブ人を平等にすることで英知の対象を広げた。【20】</p> <p>↓</p> <p>アッバース朝の隅々にまで行き渡った共通言語: アラビア語による学問のネットワークの完成。併せて商業ネットワークの完成。</p> | <p>830 【知恵の館】(図書館)【40】【100】</p> <p>○学問共同体【40】 多くの科学者が集まり、ギリシャ哲学・科学をアラビア語への翻訳</p> | <p>・タハリ(839~923) 歴史学・イラン系 【↑アリストテレスに次ぐ「第二の師」】</p> <p>・アル・キンディー(~873) アラブの哲学者</p> | <p>・フワリスミー(780~850頃) 代数学の創始者、天文学・イラン系 【↑インドの十進法とゼロの観念にアラビア数字を結びつけた】=計算に便利なアラビア数字は簿記会計に有効【70】</p> <p>オリジナルの発明は無いが「まず相手の違いを理解し、認める」という思想から追及している【10】</p> | | |
| 10C | <p>10・11Cに学問の花が開く</p> <p>946 ブワイフ朝(イラン系シーア派政権)がバグダードに入城(アッバース朝は名目的存在に) 969 ファティマ朝(イスマイル派)がエジプト、シリア支配(~1171)</p> | <p>10C末 【ムッラーを制度化】(イスラム高等学院を制度化)【30】</p> | <p>・アブー・ナースル・アル・ファラービー(~950) 哲学</p> <p>・フィルトウシー(940~1025) 文学</p> <p>・イブン・シーナー(980~1037) 哲学・ブハラ</p> <p>・イブン・アル・ハイサム(965~1040) 哲学・イラン</p> | <p>・イブン・シーナー(980~1037) 医学・ブハラ</p> <p>・イブン・アル・ハイサム(965~1040) 光学・イラン【120】 【↑ケプラー、レオナルド・ダ・ビンチ、ロジャー・ベークンに影響】</p> | | |
| 11C | <p>1058 セルジューク=トルコ(スンニ派)が、アッバース朝カリフからスルタンの称号を継ぐ</p> | | <p>・オマル・ハイヤーム(1048~1131) 四行詩集・イラン 【↑『ルバイヤート』19Cに英訳されて有名】</p> <p>・アル・ガザリ(1058~1111) 神学・イラン</p> | <p>・オマル・ハイヤーム(1048~1131) 天文暦、数学・イラン 【↑『ジャラール暦』】</p> <p>・11世紀: 宋羅針盤の発明 1096年第1回十字軍</p> | | |
| 12C | <p>1169 サラディンがアイユーブ朝を建てる 1187 サラディンがエルサレム王国(第1回十字軍が建国)を滅ぼす</p> | | <p>・イブン・ルシュト(1126~98) アリストテレス哲学・コルドバ 【↑アリストテレス哲学の研究で中世ヨーロッパに影響】</p> | <p>・イブン・ルシュト(1126~98) 医学・コルドバ</p> | | |
| 13C | <p>1206 奴隷王朝成立(インド初のイスラム王朝) 1258 モンゴル帝国がバグダード占領。アッバース朝滅亡</p> | | | <p>・アル・トウシー(1250) 天文学 【↑フトレマイオスの天動説に異議】</p> <p>1202 第4回十字軍 1270年最後の十字軍</p> | | |
| 14C | <p>辺境地へ</p> | | <p>・イブン・バルドゥーン(1332~1406) 歴史哲学者・チュニス</p> | <p>・イブン・バトゥータ(1304~1368) 地理学・モロッコ</p> <p>・イブン・アル・シャーティル(~1350) 天文学 【↑13Cアル・トウシーの説を改良した写本を、コペルニクスが読んだ可能性が高い】</p> <p>ルネサンス(~16C)</p> | | |
| ~現在 | <p>*【130】西欧は、ルネサンスによる自我・私権意識の大衆への拡大→市場化→「私権獲得を原動力として西欧近代科学は、イスラム科学を吸収して発展して行く」→大航海時代→産業革命→略奪交易へ。その後、西欧は独自に科学を発展させたように見せる為にイスラム科学の存在を歴史から抹消して行く。</p> | | | | | |
| 現在 | <p>*【110】現在のイスラム科学: イスラム法(アッラーの神)の下での事実追求には限界があって低迷している。</p> | | | | | |